



あるじでえ

No. 14

世田谷区教育委員会 民家園係
〒157 世田谷区喜多見5-27-14

◎次大夫堀公園民家園

☎03(3417)8492

◎岡本公園民家園

☎03(3709)6959

平成2年12月1日 発行

コト八日と節分

〈コト八日〉

（コトの日の行事）

地域によっては、2月8日と12月8日は「コト八日」とか「コト祭り」などと呼ばれる日で、団子や餅などを作って食べます。この日の特徴的な行事は、庭先や軒下などに、長い竿に取り付けた目籠（竹で編んだ目の多い籠）や箒などを揚げることです。

伝承によれば、コト八日の日には、妖怪が村の家々を訪れるため、人々は目籠や箒を揚げて、妖怪が家の中に入ることを防ぐのだそうです。妖怪は目籠や箒の目の多さに驚いて逃げていくと言われています。

妖怪は「一目小僧」（関東南部）、「ミカワリ婆さん」「メカリ婆さん」（神奈川県）、「ダイヤモンド」（関東・中部地方）などと呼ばれています。

（コトの意味）

本来「コト」は「祭り」を意味する言葉で、コト八日は神を祭る日でした。神祭りをする前に、人々は慎みの生活を送らなければならないことは『あるじでえ No.10—五月節句—』で説明した通りです。神祭りを前にした厳しい忌み籠りの生活、(ある期間中、日常的な行為・行動を慎み、心身を清浄にし、不浄を避ける生活) に対する気持ちだが、やがて、「恐ろしい妖怪がやってくるから静かにしなければならない。」とい

う説明を生み出したようです。

千葉県安房・上総地方では、旧暦11月26日からの10日間、山にいかず、機織りをせず、音も立てずに過ごす忌み籠りの生活を「ミカワリ」と呼んでいます。あるいは徳島県那賀郡で、頭屋(祭りの世話人)が祭りの前の7日間、他所の者と会わず、機織りをせず、牛を使わない忌み籠りの生活をする事を「ミカリ」とか「ミカワリ」と呼んでいたこともありました。

このように、日常の生活から離れて、神祭りをするのにふさわしい清らかな心身になることが「ミカワリ（身変わり）」だったのです。それがやがて妖怪の名前に変化してしまったようです。



コト八日の日の目籠(次大夫堀公園民家園)

〈節分〉

（節分）

節分は季節の分れ目を意味する言葉で、

立春・立夏・立秋・立冬の前日にあたります。

現在、節分と言えば立春（現在の暦で2月4日頃。冬至と春分の日の間にあたり、この日から春が始まるとされています。）の前日の節分が広く知られていて、種々の行事もこの日に行われています。厳しい冬がようやく終わり、待ち望んだ春へと移り変わるこの日を人々は特に重視したのでしょう。

（節分の行事）

節分の日を大きく分けると、「年越しの行事」「悪霊を追い払う行事」「年占いの行事」があります。以下、これらの行事について説明いたします。

年越しの行事

節分の夜を「オオトシ」（島根県那賀郡・長崎県壱岐島）、「トシノヨ」（徳島県海部郡・愛媛県周桑郡）、「ミテノヒ」（年の終わる日という意。山口県大島郡）などと各地で呼んでいるのは、節分の夜が1年の終わりで、翌日の立春から新年が始まることを示しています。世田谷の各地でも大晦日と同じく節分の夜に年越しソバを食べています（喜多見・等々力・馬引沢・烏山・大蔵など）。また、大晦日や節分の他に、1月6日・15日（小正月）を年越しと呼ぶ地域もあります。

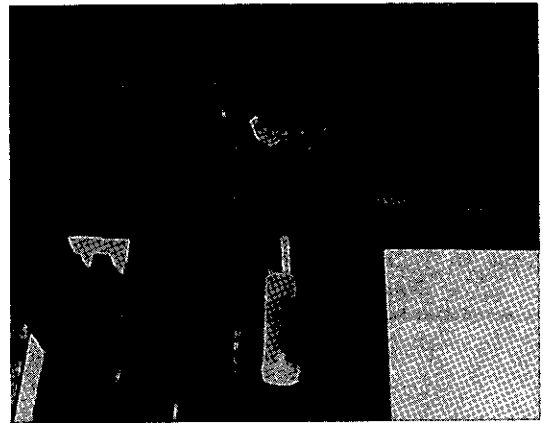
なぜ、このように、1年の内に年越しが何回もあるのかよくわかりませんが、各地の季節の変化の違いや、何度も行われた改暦などが原因しているのではないかと思われます。

悪霊を追い払う行事

節分の日には悪い物を追い払い、幸福を招き寄せようとする除災儀礼が行われます。最も一般的なものは「豆打ち」です。豆打ち役の者（多くの場合は年男＝その年の十支生れの男性）が「福は内、鬼は外」と唱えながら豆を撒き、悪霊のシンボルである

鬼を家の外に追い出そうとするのです。

豆打ち以外に見られる節分の除災儀礼には「ヤイカガシ」や「虫の口焼き」と呼ばれる行事があります。これらの行事は、鯛の頭を焼き、これと一緒にニンニクやトベラなど、臭気の強い植物を添えた柵の枝を家の人口や窓に吊したり、刺したりする行事です。焼いた鯛の頭やニンニクなどの臭気が悪霊を追い払うことができると考えられているようです。ヤイカガシという呼称は静岡県・山梨県・新潟県などで、虫の口焼きという呼称は和歌山県などで使われています。



節分の日と鯛の頭(次大夫堀公園民家園)

年占いの行事

その年の作物の出来具合や天候を占うもので、そのほとんどが小正月に集中して行われますが、節分・盆・十五夜などにも行われています。節分の時には、この日に使う豆を用いて占うことが多いために、「豆焼き」とか「豆占い」と呼ばれています。例えば、佐渡では、粒の揃った豆を12粒選んで囲炉裏の灰の上に並べ、右の豆から1月、2月として、豆の焼け具合を見ます。豆が白く灰になるとその豆の月は晴れ、黒くていつまでも焼けにくいのは雨、早く焼けると日照り、息を吹くのは風が強い月と考えられています。

文化財資料調査員 高見寛孝